

次年度に向けての取り組み目標と具体的な取り組み方策

令和5年度取り組み目標と方策			
評価項目	取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
[1] 教育活動 (教務)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育情報の発信 ・理系インタークラスのバージョンアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の質，学力観を変化させていくためにその理論的背景，社会的意義，本校での実施状況をこまめに発信していきたい。校内では教員間，生徒や保護者，また受験生に対してもホームページや小冊子などを用意する。 ・令和4年度に理系インタークラス1期生を卒業させた。これまでの指導を総括するとともに，新たな理系インタークラスの形態を検討していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期中に第1弾を発行する。 ・上半期中に総括，検討を行い，その後の入試説明会で情報発信できるようにする。
[2] 教科指導 (各教科)	授業の質の転換	知識伝達型の指導から知識活用型の指導に転換していきたい。そのために，令和4年度に成績評価を大きく変更した。定期テストで必ず活用型の問題を用意したり，パフォーマンス課題を用意したりした。良い問いを設定することが，活用型授業の重要な足がかりとなるため，一つには教員の作問能力を向上させる研修を行いたい。並行してテストと連動させた授業の組み立てを研修していきたい。	年度当初から，毎週の教科主任会議，教科会議を通じて具体的なノウハウの共有，研究を行う。
[3] 学校生活 への配慮 (生徒指導)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の観察と問題の予防 ・いじめの予防と迅速な対応 ・生徒との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去のデータ・経験に照らし合わせて学年に応じた注意を発信する。 ・SNSに端を発するいじめの予防教育を実施する。いじめを見逃さず組織で対応 ・校則等を変更する際は生徒と共同で行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初から，立哨指導や教職員情報ツールや掲示を等して注意・指導をする。 ・定期試験のタイミングで生徒指導講座を実施する。生活アンケートと保護者アンケート等を実施する。 ・年度当初から，生徒会との対話の機会を確保する。
[4] 生徒会・ 部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の充実 ・主体的な委員会活動の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツデイ，オープンハウス，奉仕活動などの全校行事を起点として，各生徒が集団に貢献し，自己価値を実感できるように指導する。 ・後期課程生徒が計画を立て，前期課程生徒が理解を深めながら活動をしていくという発想を教員間で周知する。過去の実践に 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月にスポーツデイを実施する。地域奉仕活動を6月と11月に実施する。 ・年度当初から実施する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・部・サークル活動の再構築 	<p>とらわれずに計画を立てることを意識し、生徒に指導していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の集団に所属することで、生徒個々に見合う活動を用意する。学級とはまた異なる居心地のよい場を提供できるようにする。また、部活動については全国的な制度変化の実情を見極め運営していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初から実施する。
--	---	---	--

評価項目	取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
[5] 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望の実現 ・三大進路（日本大学進学，難関大学進学，海外大学進学）の確立。特に国立大学合格者を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期課程のうちから，卒業生講演会や大学見学会などを通して進路意識を醸成する。 ・国内外の研修を通して視野を広げ，将来の職業観を醸成する。 ・保護者と教師の会主催の大学見学会や進路講演会などを通して，保護者と教師が同じベクトルで子どもたちの進路獲得に力を合わせる。 ・三大進路の確立に向け，教員の指導力を向上させ生徒の意欲と学力を喚起する。 	<p>進路年間計画や 6 年間の指導の流れを意識し，各学年の発達段階に応じた指導を行う。</p>
[6] 保健・衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な健康診断の実施 ・健康管理の支援と教育相談の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康を維持するために，健康診断や体力測定の結果を踏まえた体力向上のための情報提供や掲示の工夫をする。 ・家庭環境，友人関係の構築・変化，SNS，インターネットによる情報など多方面から心に影響を受ける生徒の実情を見据えて，教育相談だけでなく教員が子どもの姿を捉えられるよう情報を共有していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初から取り組む。 ・いじめ防止対策委員会を定期的に開催する。 ・生活アンケートを定期的に実施する。
[7] 図書	<ul style="list-style-type: none"> ・進路，進学指導に資する資料の用意 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学受験の過去問集以外に，広く社会や世界に目を向けられるような教養あふれる図書を充実させる。近年，増やしてきた学術専門書や文学作品も引き続き充実させていく。 ・理系インタークラスのゼミ活動やその他探究活動の機会が増えてきたので，その際に活用しやすい図書やデータベースを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規の購入については，時期や出版状況を確認しながら順次取り組んでいく。
[8] 広報	<ul style="list-style-type: none"> ・優秀な受験生の確保 ・入試システムのスリム化 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクール，学校説明会等の広報の機会をより充実させる。また，入学時より理系インターに入ることを可能とする制度を構築する。 ・英語運用力入試と ICL 入試を統合して同日実施とすることによって単願入試をスリム化を図る。 ・小学校，塾訪問の人員を充実させて訪問機会を増やすとともに，入試の結果を塾の 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度を通じて計画的に行う。 ・年度当初に設計する。 ・年間を通じて行う。

	・小学校、塾との連携強化	先生方にフィードバックする機会を新たに設定して連携を強化する。	
[9] 管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針の浸透 ・各教員の資質・能力の向上 ・各教員のライフステージに応じた相互協力体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長の教育方針の理解を促進し、各教員が主体的に教育活動に取り組めるようにする。 ・新任のサポートはもとより経験の多い教員についても社会情勢の変化を捉え、新たな教育への理解を深められるように研修する。 ・育児や介護など人生の各局面の困難を助けあい、持続的に働きやすい組織体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、計画的に行う。 ・教科会議，教科主任会議，教職員会議等の機会です度当初から研修の機会を設ける。 ・学園の他校とも協力しながら具体策を年度当初から検討していく。

評価項目	取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
[10] 庶務	<ul style="list-style-type: none"> ・表彰の充実 ・全校保護者会や保護者と教師の会の活動を通じ、保護者との協力関係を強化する ・防災，安全，危機管理の強化。避難訓練の充実 ・同窓会活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前準備，関係各所との連携を十分に行う。 ・各教員で生徒の善行を見出し，表彰できるようにする。 ・活躍している生徒を皆で支える雰囲気を出創する。 ・行事を円滑に運営するとともに，保護者の皆様の意見を取り入れ，協力関係を構築できるようにする。 ・避難訓練を複数回実施する。 ・大災害を想定した下校経路確認や長時間にわたる避難を想定した準備を行う。 ・同窓会の在り方，活用方法を含め新たなステージに向かうための施策を講じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のペースで実施する。 ・年間を通して，より良い活動ができるように取り組む。 ・年度当初より速やかに取り組む ・年度前半で体制を作り，年度後半で活動の立案を行う。